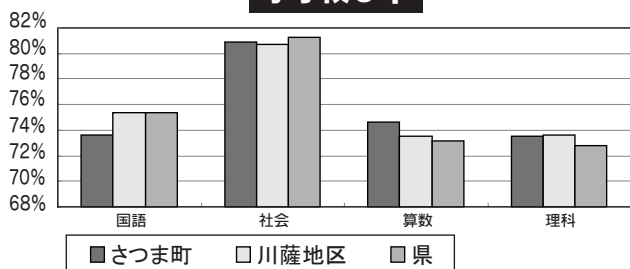


# 子どもたちに確かな学力の育成を さつま町教育委員会

子どもたちに確かな学力を育成することは、本町学校教育の重点課題のひとつです。

下のグラフは、本年1月に県教育委員会が県下の全ての小・中学校を対象に、学年を抽出して実施した「基礎・基本」定着度調査の町全体の結果（平均通過率）です。町内各学校では、この調査の結果を生かして授業の進め方や家庭学習の方法を見直し、子どもたちの学習状況に応じた指導の手立てを工夫するなどして、確かな学力の育成に取り組んでいます。

## 小学校5年



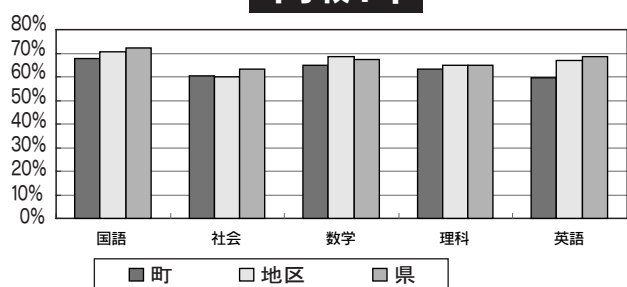
〔グラフ1 小学校5年生の結果〕

## 〔小学校5年生の分析（グラフ1）〕

社会、算数、理科は県や地区の平均と同等またはそれを上回っています。各教科とも、本調査の目安である70%を越える通過率を示しており、基礎学力の定着が見られます。

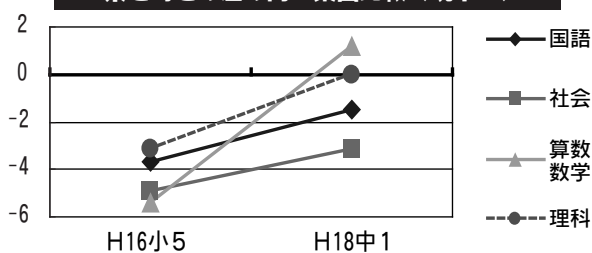
国語は、県や地区の平均を若干下回っています。説明文の読み取りの力や文法の力を更に身に付けさせ、学力の定着を図る必要があります。

## 中学校1年



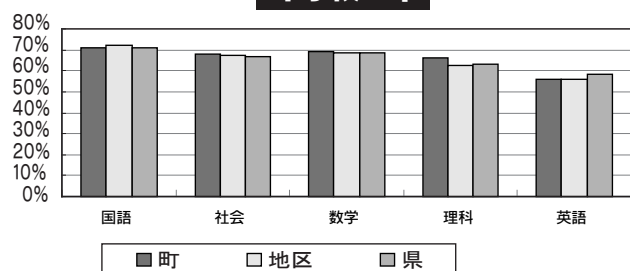
〔グラフ2 県と町との差の同一集団比較 中学校1年生（現中2）〕

## 県と町との差の同一集団比較（現中2）



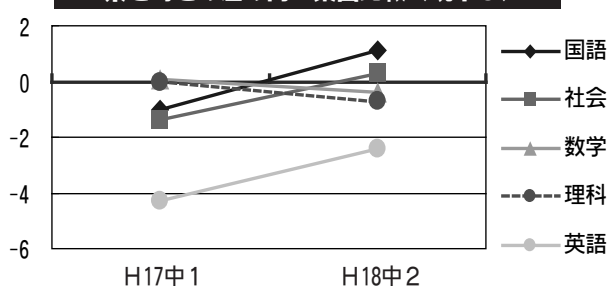
〔グラフ4 中学校1年生の結果〕

## 中学校2年



〔グラフ3 中学校2年生の結果〕

## 県と町との差の同一集団比較（現中3）



〔グラフ5 県と町との差の同一集団比較 中学校2年生（現中3）〕

## 〔中学校1・2年生の分析（グラフ2、3、4、5）〕

中学2年生は、各教科ともほぼ県や地区の平均と同じですが、社会や数学、理科は県より高い結果が出ています。中学1年生は、県平均に近づきつつありますが、更に努力が必要です。中1、中2ともに英語の学力を定着させることが課題です。グラフの4、5は、現中学2年生と3年生の過去2回の調査時の県平均との差を比較したのですが、二学年ともほとんどの教科において学力の向上が見られ、良く努力している様子が伺われます。

### 【町教育委員会の取組の重点】

- 1 学力の基礎となる国語力の向上に努めます。
- 2 教師の指導力を高める研修の充実に努めます。
- 3 家庭学習の充実に図るための指導に努めます。

